



片山九郎右衛門 **新能**

◆演目紹介

半能「白鬚しらひげ」 出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉 延岡のこどもたち ほか

帝の勅命を受けた臣下一行が近江の国の白鬚神社に参詣していると、老いた漁夫がやって来て、白鬚明神の神徳を讀え、白鬚明神の縁起を語ります。仏法を広める土地を求めていた釈尊は、釣りをする老人に比叡山を仏法の結界にしたいという、仏法の結界になれば釣り場がなくなると老人は残念がります。そこへ薬師如来が現れてこの地で仏法を開けば、今後の仏法を守護するとの誓約をしたと語ります。この老人こそが白鬚明神であると明かすと姿を消します。その夜、勅使たちの前に白鬚明神が現れ、勅使たちの心を慰めようと舞楽を奏します。明神が舞い納めると、天燈籠燈が出現。湖から龍神、空からは天女が現れ、御燈を明神に供えて舞い、夜明けとともに去り、白鬚明神の神威が示され、天下泰平の世になるのです。

能「巴ともえ」 出演 片山九郎右衛門 宝生欣哉 ほか

木曾の僧が、近江の国琵琶湖のほとり栗津ヶ原で涙を流している女と出会います。女は、その僧が木曾から来たことと知るや、栗津ヶ原の祭神は木曾義仲であるからと教えて供養をすることを勧めます。木曾義仲はこの地で頼朝・義経軍に敗れ亡くなったのです。そして、自分は亡者であることを明かすと消えてしまいます。僧はお参りに来た近在の里人から義仲と巴御前の話を聞き、先の女の亡者が巴御前だと確信をします。夜になると、僧が経を読み、亡くなった人々供養をしていると、先ほどの女が武者姿となって現れます。女は自分が巴御前の霊であることを名乗ると、主君の義仲と最期を共に出来なかった恨みが執心に残っていると訴えます。そして、合戦の日々や、義仲の最期と自らの身の振り方を克明に描き、執心を弔うよう僧に願って去っていきます。

狂言「清水しみず」 出演 茂山千之丞 ほか

主人は、茶会に使う水を野中の清水へ汲みに行くよう太郎冠者に申し付けます。日暮れも近く、日ごろから主人の茶の湯くるいに辟易していた太郎冠者は、あのあたりは暗くなるから嫌だと断りますが、主人は家宝の桶を持たせて無理やり行かせます。腹立たしい太郎冠者は、家宝の桶を清水に置いて帰ってくると「鬼が出たので逃げ帰ってきた」とウソをつきます。主人はそれを聞いて太郎冠者を心配するどころか、家宝の桶を置いてきたことが気掛かりとなり、自ら桶を取りに行くと言いつつ出します。ウソがばれては困る太郎冠者は、清水に先回りして鬼の面をかぶり「喰らうぞ!」と脅し、ホントに鬼が出たと見せかけ、恐怖で命乞いする主人に向かい、この際とばかりに自分にとって都合のいいことを言って責めたてるのですが・・・

◆演者紹介

片山九郎右衛門 (かたやまくろうえもん)

観世流シテ方。1964年九世片山九郎右衛門＝故幽雪(人間国宝)の長男として生まれる。祖母は京舞井上流四世家元の故井上愛子(人間国宝)、姉は五世井上八千代(人間国宝)、幼少より父、八世観世鏡之丞(人間国宝)に師事。各地の能公演のプロデュースなどに意欲的に取り組む。1997年京都府文化賞奨励賞、2003年京都市芸術新人賞、2003年文化庁芸術祭新人賞、2015年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。2008年から京都観世会会長、2011年に十世片山九郎右衛門を襲名。



宝生欣哉 (ほうしょう きんや) 人間国宝

ワキ方下掛宝生流。1967年東京に生まれる。父・宝生閑(人間国宝)および祖父・故宝生弥一に師事。8歳「猩々乱」で初舞台。父譲りの凜としたたたずまいと存在感で、高い評価を受けている。海外公演にも多数参加。2000年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2023年能楽界では最年少で人間国宝の認定を受けた。



茂山千之丞 (しげやま せんじょう)

大蔵流狂言師。1983年茂山あきらの長男として生まれる。祖父は二世千之丞、祖父、父らに師事。3歳で父の主宰する「NOHO(能法)劇団」の『魔法使いの弟子』で初舞台。狂言『以呂波』にて初シテ。1995年に、茂、宗彦、逸平が結成した「花形狂言少年隊」に参加。2006年「HANAGATA」を正邦(現 千五郎)、宗彦、茂、逸平と共に再開。2020年からはHANAGATA改め「Cutting Edge KYOGEN」として活動している。また若手アーティストや劇団とのコラボを行うなど新境地を切り開いている。2018年三世茂山千之丞を襲名。



内藤家旧蔵の能狂言面



宮崎県指定有形文化財となっている内藤家旧蔵の能狂言面は、江戸時代を通じて、領内の平和と繁栄を祈願するために毎年開催されていた神事能において使用されていたと考えられる能面です。桃山時代から江戸時代初期にかけて活躍し、技量に優れ、「天下一」の称号を授与された面打師たちによって作られた能面三十点を含む七十二点の能狂言面は、その質と量はもとより、城下町であった延岡の歴史と文化を彷彿とさせる貴重な歴史資料と言えます。

延岡のこどもたちも出演



地元のこどもたちが日本を代表する出演者との共演は大きな特徴です。20年近く続けられており、地域の歴史文化を後世に繋ぐのはもちろん、日本を代表する伝統文化の継承にも大きな役割を果たしてきています。この公演の監修を務める片山九郎右衛門さんの発案で始められ、これまで子方として重要な役回りを演じるとともに、故片山幽雪さん(人間国宝)とも共演、福岡市の博多座で行われた特別公演「鞍馬天狗」では野村萬斎さんと共演しました。今回で16年連続、18回目となる公演では、「白鬚」で天女と竜神の役を演じます。また公演の始まりには仕舞・連吟も披露する予定です。片山九郎右衛門さんが直接指導した延岡の「こども能楽プロジェクト」の熱演にもご注目ください。

こども能楽プロジェクト 受講生募集

随時、このプロジェクトに参加するこどもたちを募集しています。次の出演者をめざすこどもたちを待っています。

座席配置図 席位置は変更になる場合があります



入場料

- ◆S席(指定席).....8,000円
- ◆A席(自由席).....5,000円
- ◆A席(自由席・小学生～大学生).....3,000円

〈キリトリ線〉

1 住所 (〒 -)

2 氏名

3 電話番号

() - _____

4 ご希望のチケットの種類と枚数

席 _____ 枚 _____

いただいた個人情報は本新能に関する以外には使用いたしません。

〈キリトリ線〉